

平成 30 年度

事業報告書



特別ではない

ありふれた日常を

大切にしたい・・・

社会福祉法人 広寿会



四季折々の・・・



慣れ親しんだ日常・・・



そこに笑顔があります



平成 30 年度
社会福祉法人広寿会 事業報告書
目次

1. 法人部門.....	4
【運営理念】	4
【基本方針】	4
〈ひろた職員心得〉	4
【平成 30 年度目標の評価】	5
〔1〕 法人の概要	6
〔2〕 役員等の状況	6
〔3〕 平成 30 年度評議員会開催状況	7
〔4〕 平成 30 年度理事会開催状況	7
〔5〕 職員の状況	7
〔6〕 地域支援事業	8
〔7〕 法人連携事業	9
2. 施設部門.....	11
【平成 30 年度目標の評価】	11
〔1〕 施設部門の状況	11
(1) 施設の種類	11
(2) 運営状況（利用状況）	11
(3) 利用者の状況	12
〔2〕 事業内容	13
(1) ユニットの状況	13
(2) 行事報告	14
〔3〕 委員会	16
(1) リーダー会	16
(2) サブリーダー会	17
(3) 排泄委員会	17
(4) ユニット会	18
(5) 事故防止委員会	18
(6) 身体拘束廃止委員会	20
(7) 褥瘡予防委員会	20
(8) 感染予防対策委員会	21

(9) 医療安全管理委員会	22
(10) 苦情検討委員会	22
〔4〕 その他の会議	22
(1) 第三者委員会	22
(2) 利用者相談会「いどばた会議」	23
(3) 家族の会	23
〔5〕 その他の事業	24
〔6〕 特養ひろたの取組	24
3. 在宅部門	25
〔1〕 指定居宅介護支援事業所ひろた	25
【平成30年度目標の評価】	25
(1) 運営状況	25
(2) 事業内容	26
(3) 苦情受付	26
(4) 地域連絡会	26
〔2〕 たちばなの家じゃんけんぼん	26
【平成30年度目標の評価】	26
(1) 運営状況	27
(2) 事業内容	28
(3) 事故報告	30
(4) 防火・避難訓練	31
(5) 運営推進会議	32
(6) 苦情受付	32
(7) 在宅ケア委員会	32
〔3〕 砥部町デイサービスセンター（砥部町委託事業）	33
【平成30年度目標の評価】	33
(1) 運営状況	34
(2) 事業内容	35
(3) 事故報告	37
(4) 苦情受付	38
(5) 在宅ケア委員会	38
〔4〕 砥部町地域支援事業（砥部町委託事業）	39
(1) 転倒予防教室	39
(2) 地域住民グループ支援事業	39
(3) いきいき見守り配食サービス	39
〔5〕 支援ハウス（砥部町委託事業）	40
(1) 運営状況	40

(2) 行事報告	40
〔6〕 在宅部門の取組	41
(1) たちばなの家じゃんけんぼん	41
(2) 砥部町デイサービスセンター	41
4. 会 議 等	42
〔1〕 主任会	42
〔2〕 職員会	42
〔3〕 広報委員会	42
〔4〕 防災委員会	43
〔5〕 給食委員会	44
5. 研 修 等	46
〔1〕 施設実習等受入状況	46
〔2〕 施設内研修	46

1. 法人部門

【運営理念】

「ノーマライゼーションの理念を大切に」

- 1 自立支援〈できるだけ自立した生活の支援〉
- 2 自己決定〈できるかぎり本人による選択・決定〉
- 3 権利擁護〈いつの場合も個人の権利を守る〉

【基本方針】

「一人ひとりの暮らしを支えるケア」を目指して

- 1 利用者一人ひとりを見つめ、最期まで尊厳ある生活の実現
- 2 利用者の人権、プライバシーの保護
- 3 在宅高齢者の生活支援、QOLの向上
- 4 保健・医療・福祉の連携を強め、地域の福祉ニーズに応える
- 5 研修及び自己啓発等により職員の資質向上を図る

〈ひろた職員心得〉

今日も一日

1. さわやかな挨拶を交わします

2. 明るい笑顔で接します

3. 思いやりのある言葉で接します

4. 愛と真心を持って介護します

これらを胸に

働ける幸せに感謝します

【平成 30 年度目標の評価】

(1) 満足度の高いサービス提供と地域に根差した事業所づくり

特養では 17 人の入退居があった。利用者の重度化が進む中、日々のケアを丁寧に行うよう努めたが、持病の悪化等で入院日数は 29 年度を上回り、退居者のうち 3 人が入院中に亡くなるという結果等に、改めて悔いのないケアとは何かを考えさせられる 1 年であった。

ショートステイは希望者の多い状況が続いており、2 か月先までほぼ埋まっている。念願の増床のスケジュールも大方決まり、令和元年秋には 6 床での運営ができる見込みとなった。

在宅部門では、平成 15 年の事業開始より介護支援専門員 1 人の配置としてきた居宅を利用者の増加に対応すべく、30 年度から 1 人増員した。増員後も稼働は順調で、松山市や内子町からの相談も増えている。また、砥部町からランチや高齢者実態把握等の事業受託も始まり、要介護認定を受けていない広田地域の高齢者の相談受付も積極的に対応できるようになった。

受託事業の砥部町デイサービスセンターでは、30 年 4 月から利用定員を 5 人増やす一方、サービス提供時間も延ばして運営を開始したこと、さらに広田地域だけでなく内子町（旧小田地区）からの利用希望が増えてきていることで良好な稼働となった。

新規事業については、12 月に砥部町役場で行われたプレゼンテーションに参加し、小規模多機能型居宅介護事業所の新規開設予定者に選定された。事業所開設予定地である旧玉谷小学校の貸付承諾もいただき、令和 2 年度末の開設に向けて着実に準備を進めていく。

地域での暮らしを支えるためには在宅サービスの拡充が重要であり、希望に応じた質の高いサービスが提供できるよう、引き続き努力していきたい。

(2) 職員の資質、専門性の向上と働き甲斐のある職場づくり

7 人の職員が介護支援専門員試験に臨むも、残念ながら全員が不合格であった。働きながら自己学習をして資格取得するのは容易でないが、スキルアップして大きな自信を得る絶好の機会であるため、法人としても引き続き奨励し、支援していきたい。

施設内研修は、サブリーダー以上の職にある職員が交代で講師を担当して実施している。講師となる職員は毎回時間をかけて丁寧に準備をしており、充実した研修を行えるようになってきた。しかし、配置職員の人数や経験値の違い等、事業所単位での実施には限界があることから、令和元年度から事業所を横断した研修委員会を新たに設置し、法人全体での研修を増やして知識の共有と高い専門性のサービスを提供できるよう取り組んでいく予定である。

リフレッシュを目的とした連続休暇の取得については、一般職の大半が取得できたものの、管理職以上では取得が難しかった。働き方改革が推し進められ、有給休暇の取得も義務化される中、身心ともに健康で意欲的に働くことのできる環境づくりが急務となってきている。

成長支援制度は導入して 4 年が経過するが、軌道に乗っているとは言い難い。定期的な面談や目標設定を確実に実行して、職員の成長に資するよう主任級職員らを交えて対応していく。

(3) 未来を見据えた活力のある法人経営

30年度の介護報酬改定で施設部門は大幅な減収を見込んでいたが、7月豪雨で被災した施設から利用者1人を緊急受け入れしたことにより、29年度とほぼ同程度の収入を確保した。

たちばなの家じゃんけんぼんは、30年度当初こそまずまずの稼働であったが、介護度の高い利用者の利用終了が続いたこと、また新規利用者を獲得するものの、その多くが要支援認定の利用者であったことから、稼働率以上に収入が伸び悩んだ。

介護職員の確保が一段と困難になってきた中であって、30年度に福祉系大学から新規学卒者2人を採用できたことは大変喜ばしいことであった。しかしながら、働き方改革を推進したり、積極的な外部研修への参加を通じて技能向上を図ったりする上では、まだ職員数は十分と言えない。新規事業の開始も控える中、人材確保を法人の最優先課題に位置付け、あらゆる対応策を講じていきたい。

〔1〕法人の概要

1. 法人名 社会福祉法人 広寿会
2. 所在地 愛媛県伊予郡砥部町総津 405 番地
3. 法人の事業
 - ① 第1種社会福祉事業
特別養護老人ホームの経営
 - ② 第2種社会福祉事業
 - (イ) 老人短期入所事業の経営
 - (ロ) 老人デイサービス事業の経営
 - (ハ) 地域密着型通所介護事業の経営
 - (ニ) 介護保険法に基づく介護予防・日常生活支援総合事業の経営
 - (ホ) 介護保険法に基づく介護予防通所介護事業又は第1号通所事業の経営
 - (ヘ) 生活支援ハウスの経営
 - ③ 公益事業
居宅介護支援事業

〔2〕役員等の状況

1. 構成（平成31年3月31日現在）

評議員	定数	7人（現員7人）
理事	定数	6人（現員6人）
監事	定数	2人（現員2人）

〔3〕平成30年度評議員会開催状況

開催年月日 出席人数	議案	
平成30年06月25日 (評議員) 6人 (監事) 2人	第1号	平成29年度事業の報告並びに平成29年度計算書類等の承認について
	第2号	理事及び監事の報酬等の額、理事及び監事並びに評議員に対する報酬等の支給の基準について
平成31年03月25日 (評議員) 7人 (監事) 2人	第3号	平成30年度第一次補正予算(案)の承認について
	第4号	平成31年度事業計画(案)の承認について
	第5号	平成31年度収支予算(案)の承認について

〔4〕平成30年度理事会開催状況

開催年月日 出席人数	議案	
平成30年06月07日 (理事) 6人 (監事) 2人	第1号	平成29年度事業報告並びに決算の承認について
	第2号	規程(規則)の一部改正について
	第3号	評議員会の招集について
平成30年12月08日 (理事) 6人 (監事) 2人	第4号	第三者委員の選考について
	第5号	規程(規則)の一部改正について
	第6号	理事長専決事案に係る同意について
平成31年03月15日 (理事) 6人 (監事) 2人	第7号	平成30年度第一次補正予算(案)の同意について
	第8号	規程の一部改正について
	第9号	平成31年度事業計画(案)の同意について
	第10号	平成31年度収支予算(案)の同意について
	第11号	評議員会の招集について

〔5〕職員の状況

【職員数】

単位：人

	常勤				非常勤職員		計	
	正規職員		準職員		29年度	30年度	29年度	30年度
	29年度	30年度	29年度	30年度				
男	11	10	1	1	0	2	12	13
女	12	16	7	4	16	14	35	34
計	23	26	8	5	16	16	47	47

※ 人数は、各年度3月31日時点の在職数。

【勤続年数】

単位：人

			1年未満	1年～ 3年未満	3年～ 5年未満	5年～ 10年未満	10年～ 15年未満	15年以上	計
常勤職員	正規職員	男	0	3	0	2	3	2	10
		女	0	6	1	3	3	3	16
	準職員	男	0	1	0	0	0	0	1
		女	0	1	2	1	0	0	4
非常勤職員	男	2	0	0	0	0	0	0	2
	女	4	3	3	4	0	0	0	14
計			6	14	6	10	6	5	47

【有資格者数】

単位：人

	看護師		准看護師		社会福祉士		介護福祉士		管理栄養士		介護支援専門員	
	29年度	30年度	29年度	30年度	29年度	30年度	29年度	30年度	29年度	30年度	29年度	30年度
男	0	0	0	0	0	0	7	9	0	0	2	2
女	2	2	5	5	0	0	14	14	2	2	3	3
計	2	2	5	5	0	0	21	23	2	2	5	5

※ 1人で2以上の資格を有するものについては、それぞれに計上。

※ 人数は、各年度3月31日時点の取得資格。

【研修修了者の推移】

単位：人

認知症対応型サービス事業 管理者研修		認知症介護実践者研修 (実践リーダー研修)		認知症介護実践者研修	
29年度	30年度	29年度	30年度	29年度	30年度
2	3	2	1	4	5

〔6〕地域支援事業

①災害・異常気象時等の安否確認

広田地域で長く暮らす高齢者も「記憶にない」と驚いた平成30年7月豪雨は、広田地域の各地区で道路を寸断した。また、この豪雨の影響で総津地区等は断水にも見舞われ、日常生活に大きな混乱を招いた。広田地域には今なお復旧作業が続いている箇所もあり、改めて被害の大きさを思い知らされる。

当法人の各事業所は幸いにも大きな被害はなかったが、南予地区の老人福祉施設に甚大な被害が出たため、特養ひろたが加盟する中予地区老人福祉施設協議会を通じて被災地へ飲料水や備蓄米等の物資を送った。

また、砥部町社会福祉協議会の呼びかけに応じ、広田地域で土砂が流入した家屋の復旧作業に協力する等、地域唯一の社会福祉法人として活動した。

このような自然災害はいつ何時起こるのか分からない。今回の体験を糧とし、法人を挙げて万が一への備えをしていきたい。



普段の様子（写真左）と大雨で一変し、濁流と化した特養ひろたの前を流れる玉谷川（写真右）。



がれきの撤去作業に協力する広寿会職員。

②年末入浴支援

砥部町デイサービスセンターが休業する年末年始、自宅での入浴が困難なデイサービス利用者への支援として、29年度に好評だった入浴サービスを30年度も行った。予め希望調査を行い、デイサービスセンター職員を中心に多職種が協力して12月31日、送迎サービスも含めて対応した。利用者や家族からは「お風呂に入れて気持ち良くお正月が迎ええられる」と喜んでいただいた。今後も利用者や家族、地域のニーズをくみ取り、在宅での生活を支えていきたい。

〔7〕法人連携事業

①砥部町社会福祉法人連携

【砥部町社会福祉法人連携協議会】

メンバー：砥部町社会福祉協議会・砥部寿会・南風会・広寿会

目的：砥部町内の社会福祉法人が連携し、「地域における公益的な取り組み」活動を行う。

《総評》

29年度に発足した砥部町内4つの社会福祉法人による「地域における公益的な取り組み」を継続して推進した。

30年度は「きらきら食堂」と「お互い様りサイクル」を実施し、徐々に参加人数も増えてきた。町民からの問い合わせ件数も増加しており、関心が高まってきている表れと見ている。

また、令和元年度に向けて「災害支援の取り組み」と「法人職員研修」（法人連携協議会の取り組みについて）を計画している。1月にはその準備の一環として、松前町社会福祉協議会で行われた福祉避難所開設訓練に広寿会からも担当職員が参加した。

大規模災害には相互協力が不可欠である。地域住民の福祉向上に資するため、砥部町内の4法人が協力して機能的かつ強力な体制づくりを進めており、広寿会もその中でしっかりと役割を果たしていきたい。



【きらきら食堂開催】

②さんぱつカフェ

【砥部町地域福祉活動推進懇談会】

メンバー：地域住民・砥部町役場広田支所・砥部町社会福祉協議会・広寿会

目的：住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、住民や社会福祉関係者が互いに協力し、地域の福祉課題を解決するために取り組む。

《総評》

広田地域に理美容室がなくなったことで散髪に困っている高齢者を対象に、地域交流の場を併せ持った『さんぱつカフェ』を定期開催し、広寿会は送迎が必要な住民への支援を行った。

開催をするごとに利用人数も増えており、普段なかなか顔を合わせる機会が少なくなった高齢者同士の憩いの場として定着しつつある。広寿会にとっても送迎の支援を通じて法人サービスを利用していない地域の高齢者を知ることができ、顔馴染の関係づくりに大きく役立っている。

2. 施設部門

【平成 30 年度目標の評価】

【重点目標】 専門的視点と知識の習得、利用者の QOL 向上につながるトータルケアの実現

研修形態を事例検討・実践・評価と大幅に内容変更し、自分たちで考え、ケアを実践していく職員育成に取り組んだ。事例検討を取り入れることで、より効果的に知識として身に付きやすくなった。ダブルチェックも定着し、リーダーからは根拠に基づく意見等が出始めている。

30 年度は入退居が多く、また豪雨災害で被災した施設から利用者を緊急で受け入れるという初めての経験があり、対応に追われた 1 年であったと感じる。加えて 12 月下旬にインフルエンザの集団感染が発生し、ショートステイの受け入れ中止等稼働にも影響してしまったことは大きな反省点である。

近年は、高齢化や重度化により活動量が低下している利用者、反対に自立意欲が高く活動量が増えている利用者との二極化傾向が高まってきている。重度化した利用者への対応と新規利用者の状態把握に追われ、自立意欲の高い利用者への対応について課題を残した。

令和元年度の目標は、30 年度実施した「満足度アンケート」で出た利用者や家族の要望に応える「夢かなえようプラン」を実行し、QOL 向上につながるケアを行いたい。また、研修で得た知識をダブルチェックの場面だけでなく、ユニット会やサブリーダー会での検討に活かし、そこから早めの対応をすることで入院をなくし、元気に過ごしていただけるケアを実践したい。

〔1〕施設部門の状況

(1) 施設の種類

- ①特別養護老人ホーム（指定介護老人福祉施設） 定員 30 人
- ②老人短期入所事業所（指定短期入所生活介護事業） 定員 4 人

(2) 運営状況（利用状況）

【指定介護老人福祉施設】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
平均介護度	4.1	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.1	4.1	4.1	4.2	4.1	4.1
稼働率(%)	99.7	99.5	99.8	101.9	103.3	103.3	103.2	102.8	102.9	101.9	103.2	103.3	102.0

※ 29 年度稼働率 99.8%（空床利用含） ※ 平成 30 年 7 月豪雨災害のため、7/23 より大洲市から緊急避難者 1 人を受け入れ。

【短期入所生活介護事業所】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
利用件数	16	15	15	16	15	17	15	14	13	13	15	13	14.7
稼働率(%)	102.5	100	100.8	100	100.8	99.1	100.8	100	89.5	90.3	100.8	100	98.7

※ 29 年度稼働率 118.2%

※ 30 年度全体（特養＋短期）稼働率 101.6% 29 年度全体（特養＋短期）稼働率 102.0%

(3) 利用者の状況

【出身地別入居・退居状況】

単位：人

市町／区分	保険者別利用者数			平成30年度中の異動状況					
				入居			退居		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
砥部町	7	11	18	2	2	4	1	4	5
内子町	3	6	9	1	2	3	0	2	2
松山市	0	2	2	0	0	0	0	0	0
伊予市	0	1	1	0	1	1	0	0	0
今治市	0	0	0	0	0	0	0	1	1
大洲市	0	1	1	0	1	1	0	0	0
合計	10	21	31	3	6	9	1	7	8

※ 平均在籍日数 1,041日 ※ 大洲市（緊急受け入れ利用者）

【年齢区分別構成状況】 平成31年03月31日現在

単位：人

年齢区分	男	女	計
75歳～79歳	2	0	2
80歳～84歳	0	3	3
85歳～89歳	4	8	12
90歳～94歳	2	7	9
95歳以上	2	3	5

【入院経過状況】

ケース	入院日数	入院期間	入院原因
ケース.1	16日	H30.04.02～04.19	間質性肺炎
ケース.2	19日	04.10～04.30	間質性肺炎
ケース.3	35日	04.30～06.05	間質性肺炎・胆嚢炎
ケース.4	14日	05.07～05.22	食欲低下
ケース.5	7日	05.21～05.29	腹膜炎
ケース.6	29日	06.18～07.18	蜂窩織炎
ケース.7	19日	08.22～09.11	脳梗塞
ケース.8	12日	10.26～11.07	肺炎（死亡退居）
ケース.9	0日	10.29～10.30	心不全
ケース.10	22日	H31.01.04～01.26	肺炎・心不全（死亡退居）
ケース.11	15日	01.21～02.06	肺炎
ケース.12	7日	02.11～02.18	水腎症・腎不全（死亡退居）
計	195日		

※ 29年度入院者数 8ケース 延べ入院日数 137日 ※ 入退院日は入院日数に含めない。

〔2〕事業内容

（1）ユニットの状況

- ◆一丁目ユニット・・・男性：8人 女性：7人 平均年齢：87.4歳 平均介護度：4.2
職員数：5人

利用者の入れ替わりで半数以上が男性となって雰囲気が変わり、思い思いに自分のペースで過ごされている。そういう中で、少なくなった女性利用者に楽しんでもらいたいと女子会を企画する等、職員もいろいろな試みを取り入れながらユニット運営行った。

高齢化とともに重度化が進み、リビングよりも居室で過ごす時間が増えている利用者もいる中、利用者みんなで楽しめる行事をどう計画していけるかが今後の課題である。知恵を出し合っ、ますます笑顔あふれるユニットづくりに取り組んでいきたい。



【蒸しパン作り】



【女子会】



【風船パレー】

- ◆三丁目ユニット・・・男性：2人 女性：14人 平均年齢：91.2歳 平均介護度：4.1
職員数：6人

101歳の利用者を筆頭に、それぞれが個性豊かで毎日活気にあふれている。利用者が個々に楽しみを持っており、編み物が趣味の利用者は、作ったアクリルたわしをプレゼントしてくれ、ユニットで毎日使わせてもらっている。

みんなが楽しみにしている食事作りでは、利用者が主体となってメニューの決定から調理や味付けまで行っている。手際の良さは健在で、いつもはあまり食事が進まない利用者も、この時は表情良く食欲旺盛である。

これからも日々の関わりを大切にして利用者一人ひとりの求めに耳を傾け、笑顔あふれるユニットを作っていきたい。



【ちらし寿し作り】



【クリスマス会】



【バレンタインデー】

(2) 行事報告

【全体行事等】 ※毎月各ユニットで食事作りを実施

月	日	行事名	場所	
04	29	17周年記念感謝祭	デイサービス中庭	 <p>【感謝祭】</p>
05	28	居酒屋		 <p>【居酒屋】</p>
08	07 14	しあわせの集い 総津地区盆踊り	国際ホテル松山 ひろた交流センター駐車場	 <p>【そうめん流し】</p>
09	23 29	広田小学校運動会 物故者を偲ぶ会	広田小学校グラウンド 特養ひろた研修室	 <p>【物故者を偲ぶ会】</p>
11	15 27	1丁目忘年会 3丁目食事会		
12	26	もちつき		 <p>【もちつき】</p>
01	01	年賀式		
02	04	節分（豆まき）		

※ 行事食：砥部町デイサービスセンターと共同に関しては栄養士行事食に記載

【地域・ボランティア交流】

月	日	活動内容	団体および個人名	
04	02 05	散髪ボランティア おはなしかい	髪切りクラブ 砥部町立図書館・広田保育所	 【おはなしかい】
06	04 07	散髪ボランティア おはなしかい	髪切りクラブ 砥部町立図書館・広田保育所	
07	27	民生児童委員施設訪問	砥部町民生児童委員	
08	02 06 14 27	おはなしかい 散髪ボランティア 総津地区盆踊り そうめん流し	砥部町立図書館・広田保育所 髪切りクラブ 広田保育所	
09	04 23	100歳表彰式 おはなしかい 広田小学校運動会	砥部町長・砥部町介護福祉課 砥部町立図書館・広田保育所 広田小学校・広田保育所	 【100歳表彰式】
10	01 04 07 19 23	散髪ボランティア おはなしかい 独居友の会ひろた 講演会 広田保育所 お神輿来所 地方祭	髪切りクラブ 砥部町立図書館・広田保育所 砥部町介護福祉課 広田保育所	 【地方祭】
11	01 03 04 21 29	おはなしかい いのこ ふるさとフェスタ 砥部町老人クラブ 施設訪問 多居谷地区健康教室	砥部町立図書館・広田保育所 砥部町老人クラブ 砥部町介護福祉課	 【多居谷地区】
12	03 06	散髪ボランティア おはなしかい	髪切りクラブ 砥部町立図書館・広田保育所	
02	04 07 06	散髪ボランティア おはなしかい 総津地区健康教室	髪切りクラブ 砥部町立図書館・広田保育所 砥部町介護福祉課	
03	07	おはなしかい	砥部町立図書館・広田保育所	

〔3〕委員会

【委員会の種類と構成】

利用者の生活の質の向上、健康管理やケアの方法等について、関係職員で構成する会議及び委員会等で専門的に分析・検討し、方針決定する。

職名等 委員会等の名称	施設長	部長	生活相談員	看護主任	介護主任	管理栄養士	介護支援専門員	ユニットリーダー	ユニットサブリーダー	ユニット職員	その他関係職員
(1) リーダー会	●	●	●	●	●	●	●	●			
(2) サブリーダー会			●	●	●		●		●		
(3) 排泄委員会			●	●	●		●		●		
(4) ユニット会			●	●	●	●	●	●	●	●	
(5) 事故防止委員会	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
(6) 身体拘束廃止委員会			●	●	●	●	●	●	●	●	
(7) 褥瘡予防委員会	●	●	●	●	●	●	●	●			
(8) 感染予防対策委員会	●	●	●	●	●	●	●	●			
(9) 医療安全管理委員会	●	●	●	●	●	●	●	●			
(10) 苦情検討委員会	●	●	●	●	●	●	●	●			●

※ 「その他関係職員」とは、在宅部門や管理部門職員で、協議事案に直接または間接的に関係する職員。

(1) リーダー会

(開催日) 毎月最終水曜日

(主な協議事項) アクションプランについて、ユニット報告、業務連絡

開催日	内容
H30. 04. 17	事業報告書 リハビリスペース検討
05. 16	夜勤職員配置加算の算定開始 ひろた農園の管理
06. 20	夜勤職員配置加算の確認 施設内研修 家族会 賞与ポイント単価周知
07. 18	そうめん流し 災害時緊急受け入れ 記録ミスの改善方法
08. 15	施設内研修 家族満足度アンケート オリゴ糖・サンファイバー使用 人事
09. 26	食事のケア変更 介護抵抗のある利用者の対応方法 人事
10. 17	苦情内容の検討 居室変更 ショートステイ利用時の送迎 照明工事 事業計画案
11. 14	家族会 ケアプラン 実地指導監査の結果
12. 19	アクションプラン 人事
H31. 01. 16	施設内研修 家族満足度アンケート報告 インフルエンザ スキルチェック
02. 20	感染予防 職員のユニット異動 レジオネラ検査
03. 20	夢かなえようプラン実施 褥瘡予防検討 人事

(2) サブリーダー会

(開催日) 毎月第2水曜日

(主な協議事項) 事故防止対策、ケース検討、ケアの方向性・確認

開催日	内容
H30.04.11	事故検討(転倒・転落、内出血、柵外し) 新人職員の経過報告
05.09	事故検討(転落)
06.13	事故検討(転落) 事故報告書・ヒヤリハット報告書作成
07.11	事故検討(内出血、義歯誤飲) 新人職員の経過報告
08.09	事故防止対策検討(転落)
09.12	事故検討(内出血) 新人職員の経過報告
10.10	事故検討(リフト移乗時の臀部傷) ケース検討(眠前薬服用) 新人職員の経過報告
11.20	事故検討(内出血、転落) 新人職員の経過報告
12.12	事故検討(転倒、内出血)
H31.01.09	事故検討(転倒、居室環境整備) 内出血の情報収集方法
02.22	事故検討(爪切り事故、内出血)
03.12	事故防止対策検討(職員の異動に伴う周知徹底)

(3) 排泄委員会

(目的) 排泄アセスメントを行い、排泄パターンの見直しと排泄用品の適正使用を検討する。
機能性尿失禁の利用者の排泄パターンを見直す。

(開催日) 毎月第2水曜日

(主な協議事項) 排泄アセスメント・排泄用品の見直し

月日	内容	月日	内容
H30.04.11	排せつ支援加算算定要件等報告	10.10	利用者6人の排泄見直し
05.09	利用者5人の排泄見直し	11.20	利用者8人の排泄見直し
06.13	利用者5人の排泄見直し	12.12	利用者4人の排泄見直し
07.11	利用者5人の排泄見直し	H31.01.09	利用者4人の排泄見直し
08.09	排せつ支援加算取得開始	02.22	利用者4人の排泄見直し
09.12	利用者4人の排泄見直し	03.12	利用者2人の排泄見直し

《振り返りと目標》

尿量測定と排泄等のアセスメントを実施し、結果を基に排尿量や水分量を把握し、個々にあったトイレの誘導時間や使用する排泄ケア用品の検討を行った。細かく見直しを行ったことで大幅に経費節減できた。

便秘対策は、オリゴ糖等を使用し、下剤に頼らない排便ケアを行ってきたが、利用者の入れ替わりや重度化により身体機能が低下し、下剤使用者が一時期3人から6人に増加した。重度化している利用者への対応を迅速に行い、下剤に頼らない自然排便が促せるケアを実践していくことが今後の課題である。

8月からは、排せつ支援加算の算定も開始した。引き続き、個々に応じた気持ち良く排泄できるケアを行っていく。

(4) ユニット会

(目的) ケアの方向性の検討・確認 委員会報告を行う。

(主な協議事項) ケース検討 リハビリ方法 褥瘡予防 身体拘束廃止

各委員会報告 栄養ケアマネジメント ヒヤリハット・事故報告検討

【一丁目】

月日	追加議題	月日	追加議題
H30.04.24	夜勤職員配置加算の説明 臥床時のポジショニング統一	10.26	感染予防 苦情の対応
05.31	丁寧なケアの徹底	11.27	デスクカンファレンス 利用者、職員体調管理徹底
06.27	ユニット・居室の環境整備	12.28	感染予防 特養新規利用者のケア検討
07.19	利用者の体調管理の留意点 (衣類調整等)	H31.01.23	業務改善検討
08.17	事故防止の徹底	02.28	特養新規利用者のケア検討
09.25	総合記録シートの記入漏れ防止	03.26	特養新規利用者のケア検討 リビング環境整備

【三丁目】

月日	追加議題	月日	追加議題
H30.04.20	夜勤職員配置加算の説明	10.31	総合記録シートの記入漏れ防止 感染防止対策
05.21	事故・ヒヤリハット報告書の書き方の統一	11.19	デスクカンファレンス 特養新規利用者のケア検討
06.21	利用者の体調管理の留意点 (衣類調整等)	12.20	利用者、職員体調管理徹底 感染予防 排泄ケア検討・対象利用者の話し合い
07.23	デスクカンファレンス 特養新規利用者のケア検討	H31.01.18	デスクカンファレンス 感染予防
08.22	デスクカンファレンス 特養新規利用者のケア検討	02.21	認知症ケア検討・対象利用者の話し合い
09.28	食事のケア見直し検討	03.22	口腔ケアの声掛けの徹底 (自己管理者) パッド補充の徹底

(5) 事故防止委員会

毎週各ユニットで事故分析を行い、困難なケースに関してはサブリーダー会で分析及び改善策を再検討する。

① 件数

- 《危険度0》 … 事故を未然に防ぐことができた 34件
- 《危険度1》 … 事故を未然に防ぐことはできなかったが、バイタルサインを含め異常は確認されなかった 118件

《危険度 2》	… 処置や治療は行わなかったが、バイタルサイン・観察は継続的に必要	39 件
《危険度 3》	… 簡単な処置や治療を要した(消毒・湿布・皮膚剥離・鎮痛剤の服用)	22 件
《危険度 4》	… 濃厚な処置や治療を要した(骨折・縫合・入院等)	0 件

	ヒヤリハット報告書 (危険度 0・1)	事故報告書 (危険度 2・3・4)
特 養	140	54
短期入所	12	7
合計	152	61

※ 平成 29 年度 件数 ヒヤリハット報告書… 102 件 事故報告書… 71 件

② 事故内容と年間件数

		介護 2	介護 3	介護 4	介護 5	年間件数
医 療	胃瘻接続部外れ	0	0	0	2	2
	配薬・服用ミス	1	2	1	3	7
	バルンカテーテル抜去	0	0	0	1	1
内 出 血	不明	0	3	10	10	23
	環境不備	0	2	28	33	63
皮膚剥離		0	1	9	10	20
擦過傷		0	0	3	2	5
転 落	ベッド	0	12	8	1	21
	車椅子	0	4	3	1	8
	ソファ	0	0	0	4	4
	トイレ	1	0	3	1	5
転倒		4	0	4	0	8
誤嚥		0	0	1	0	1
異食		0	0	2	0	2
介助中の事故		0	1	0	2	3
一人で 1 階に下りる		0	4	1	0	5
その他		2	3	26	4	35
合計		8	32	99	74	213

③ 分析

30 年度は、「平成 30 年 7 月豪雨」による緊急受け入れを含め、17 人の利用者の入退居があった。新しく入居された方は、環境の変化に伴う周辺症状の悪化も見られる中、センサーマットの活用やリビングでの見守り方法の検討を行った。これにより、29 年度と比べ、ヒヤリハット報告書は増加したものの、事故につながる前に対応策を考えられたことで事故報告書は 10 件減少した。事故防止委員会やダブルチェックにより利用者の小さな変化の気づきを情報共有し、早めにケア方法の変更ができたことも事故発生の減少につながったと考える。

内出血に関しては、介助方法の見直し・変更や危険個所の保護で対応してきたが、効果はあまり見られなかった。スライディングボード、昇降リフト、介護ロボット等の介護機器を継続的に

使用し、持ち上げない介護をすることで内出血の発生件数の削減につなげたい。

(6) 身体拘束廃止委員会

(目的) 身体拘束のないケアを行う。

開催日	追加議題
H30.06.21 06.27	センサーマット、低床ベッド、長いベッド柵の使用者の状況、臀部を搔かれる方の対応方法等
09.26	センサーマット、低床ベッド、長いベッド柵の使用者の状況
12.19	センサーマット、低床ベッド、長いベッド柵の使用者の状況
H31.03.22 03.23	センサーマットの使用者の状況

《振り返りと目標》

身体拘束を行うケースはなかった。環境や体調の変化から不穏になるケースは随時話し合いを行い、その利用者にあった環境整備を行った。新規利用者は行動パターンが把握できないためセンサーマットを使用する等の対応策を講じた。環境に慣れたり、体調が回復したりして周辺症状が落ち着いた方や身体的機能の低下に伴い、センサーマットの使用数は減少した。

30年度からは身体拘束の施設内研修を年2回実施している。引き続き身体拘束の事例が発生しないよう、利用者の状態を細やかに観察し随時検討を行っていく。

(7) 褥瘡予防委員会

(目的) 褥瘡予防と早期発見、対応を行う。

開催日	追加議題
H30.06.20	ハイリスク者の抽出(8人) 前回との比較・原因分析 褥瘡発生者2人の経過・対応検討 褥瘡マネジメント加算の算定方法について
12.19	ハイリスク者の抽出(6人) 前回との比較・原因分析 褥瘡発生者1人の経過・対応検討 褥瘡マネジメント加算算定の経過及び計画書の検討
H31.03.20 03.29	褥瘡研修会にて発生リスクの再確認

《振り返りと目標》

年2回の健診結果を基に褥瘡発生リスクを点数化し、ハイリスク者を抽出し継続的に対応を行っている。30年度は、残念ながら2人の利用者に褥瘡が発生した。適切な処置により幸い治癒したが、うち1人は31年1月に発生リスクが低く自力で動かれる方に発生してしまった。あらゆる利用者にも褥瘡が発生するリスクがあることを研修で再確認を行った。

2人の他に褥瘡がある状態で入居された利用者は、皮膚科にかかりながら約3年間処置を続けたが、残念ながら治癒することなく死亡退居された。

褥瘡は一度発生してしまうと、治癒するまでにかなり時間を要し、利用者への負担も大きい。8月から褥瘡マネジメント加算の算定を開始し、褥瘡予防に努めてきた。今後も多職種連携して褥瘡が発生しないよう努めていきたい。

(8) 感染予防対策委員会

(目的) 感染予防及び発生時の対応と検討を行う。感染対策に関する職員研修を行う。

開催日	追加議題
H30.06.20	環境整備の注意喚起 水虫予防の対策
09.26	手洗い・うがいの徹底 インフルエンザ予防の注意喚起
12.19	インフルエンザ・ノロウイルス感染予防の注意喚起 加湿の徹底 体調不良時の早めのマスク着用、報告相談の徹底
12.28 (臨時開催)	インフルエンザ感染者の確認 現在の感染状況報告 今後の対応策の検討 (加湿の徹底・体調不良時の報告の徹底・食器類の消毒等) 居室での利用者の対応方法 タミフルの予防投与の検討 全職員への対応策の徹底方法
H31.01.04 (臨時開催)	インフルエンザ感染の経過・終息報告
03.20	12月発生のインフルエンザ集団感染報告、引き続きの注意喚起 体調管理・環境整備の注意喚起

(インフルエンザ集団感染の経過)

H30.12.24	夜勤明けの職員からインフルエンザA型を発症したと報告あり
12.26	特養利用者5人 38～39度の発熱
12.27	砥部病院より往診、発熱者のうち陽性4人、陰性1人 タミフル投与開始 帰宅が難しいショートステイ利用者1人を除き、ショートステイの受け入れを中止 外部からの面会を全面中止 職員、自主的にタミフル服用(計13人服用)
12.28	特養利用者3人、ショートステイ利用者1人 38度の発熱 嘱託医に状況報告し、利用者全員にタミフルを予防投与 予防投与は隔日で、発熱の症状が出た場合は毎日服用 職員1人体調不良にて早退 愛媛県中予地方局地域福祉課、中予保健所、砥部町役場介護福祉課に電話で状況報告
12.29	特養利用者1人 38度の発熱 前日発熱したショートステイ利用者、受診しインフルエンザA型と診断 前日早退した職員、受診しインフルエンザA型と診断されたと報告あり
12.31	休日の職員から、体調不良で受診しインフルエンザA型と診断されたと報告あり 感染していた利用者9人の熱は下降し経過良好
H31.01.04	12月31日以降、利用者・職員ともに新たな発症者なし 感染していた利用者の経過良好、主治医から終息との診断 中予保健所、砥部町役場介護福祉課に電話にて報告、感染発生報告書を提出
01.07	外部からの面会を再開(事務所での声かけは継続)

《振り返りと目標》

12月下旬にインフルエンザの集団感染が発生した。職員1人の感染が判明した翌日には利用者5人が一斉に発熱、うち4人から陽性反応が出た。マニュアルに基づいて対応を行ったがその後も発熱者が出たため、嘱託医に相談し利用者全員に治療薬の予防投与を行った。最終的に

利用者9人、職員3人が感染し終息までに11日間を要し、年末年始の時期で外出や面会を予定されていた家族にも迷惑をかけることとなってしまった。今回は潜伏期間中に職員から利用者に感染した。日頃から感染防止に努めていたが、今回の感染で対策が不十分であることを痛感した。あらゆることを想定した対応がとれるようマニュアルの見直しを行い、感染ゼロに向けて取り組みたい。

(9) 医療安全管理委員会

(目的) 医療事故防止の徹底と安全に対する意識啓発、対策検討を行う。

開催日	追加議題
H30.06.20	医療事故4件報告 誤薬・配薬ミス予防の検討、根本的な改善策の検討 バルン抜去防止の検討
09.26	医療事故3件報告 胃瘻を造設している利用者の臨時薬服用ミス対策の検討 胃瘻を造設している利用者の栄養注入中の接続部抜去の原因分析・防止の検討
12.19	医療事故3件報告 服用ミス予防の検討
H31.03.20	医療事故0件 31年度の目標

《振り返りと目標》

29年度に比べ医療事故の件数が3件減少したが、誤薬や配薬・服用ミス、胃瘻を造設している利用者の栄養注入中の接続部抜去等があった。

誤薬・配薬ミスに関しては看護職、介護職が連携してマニュアルを見直し、ダブルチェックの徹底と朝礼や会議で繰り返し注意喚起を行うことで31年1月以降医療事故は起こっていない。今後も定期的に注意喚起やチェックの方法の検討を随時行い、多職種で連携して医療事故ゼロを目指していく。

入退居に伴い、経管栄養を使用している利用者が半数に減ったが、一人ひとりの状態に合わせた対応方法を検討し、事故が発生しないようにしていく。

(10) 苦情検討委員会

(目的) 利用者及びその家族からの苦情に対し、迅速、公正かつ適切に解決することを目的とする。

苦情受付件数：1件

苦情内容：ショートステイ利用中に歯科受診に行くとの連絡があったが、伝達がうまくできておらず準備ができていなかった。

対応内容：①職員に申し送りをする際には、朝礼時に詳細な情報を伝達する。

②日中の責任者を明確にし、責任を持って対応にあたる。

③家族の対応は、ユニットに関係なく利用者の所まで案内する。

[4] その他の会議

(1) 第三者委員会

日時：平成30年07月24日(金) 15:00～16:00 / 特養ひろた研修室

出席委員：3人

協議議題：29年度事業報告、監事監査報告、29年度の苦情受付報告及び事故について報告、

「平成 30 年 7 月豪雨」の報告、意見交換

意見等：医療事故に関して、何度も同じミスをしていることは問題。研修で事例検討を行い、確認方法を再構築する必要があるのではないか。また「平成 30 年 7 月豪雨」を教訓に、想定外の異常気象に備えた防災対策を行うことが必要不可欠な状況である。

(2) 利用者相談会「いどばた会議」

砥部町介護相談員が施設に来所し、定期開催する。

利用者は毎回楽しみにしており、介護相談員に地域の出来事を聞いたり、施設での日々の様子を話したりしている。また、職員では聞き出すことができない利用者の声を施設に伝えてもらうこともあり、利用者にとって心強い存在となっている。

開催日	相談員数	相談利用者数	開催日	相談員数	相談利用者数
H30.05.16	3	12	10.16	3	15
06.20	3	13	11.21	2	10
07.17	2	17	12.19	3	15
08.16	3	14	H31.01.15	3	17
09.18	3	17	02.20	3	16

※ 4 月及び 3 月は未実施

(介護相談員から報告された利用者の声及び質問事項とその対応)

報告事項／質問事項	対策・理由
H30.11.21 ・不平不満を言われる利用者と一緒に席のため、ストレスを感じている利用者がある。	・近日中に席替えを行う。ストレスが軽減できるよう職員も間に入り対応する。
H31.01.15 ・リビングで過ごしている際に、尿臭が気になる利用者があった。	・バルンカテーテル留置している利用者の尿臭と思われる。毎日陰部洗浄実施しているが、尿臭治まらないことを説明する。今後対策を検討していくことを伝える。

(3) 家族の会

施設利用者の家族同士の親睦や施設職員との交流により相互理解を深め、施設の運営や介護サービスにおける意見交換や課題解決を行い、サービス内容の向上を図ることを目的とする。また利用者の家族へ施設行事の積極的参加を促し、利用者の施設生活をより良いものとする。

○平成 30 年 04 月 20 日・21 日

感謝祭前日準備・感謝祭屋台運営

○平成 30 年 06 月 24 日・27 日（予備日）

総 会・・・25 家族 25 人、面談 25 家族

総会予備日・・・6 家族 7 人、面談 6 家族

※面談が実施できなかった家族については後日、面談を実施



【感謝祭屋台運営】

○平成 30 年 11 月 2 日

家族の会総会・大掃除・・・16 家族 16 人

いもたき会・・・12 家族 12 人



【家族の会 いもたき会】

〔5〕その他の事業

各地区の介護予防教室

【介護予防教室】

地区の集会所で行われる介護予防教室に、特養利用者も里帰りを兼ねて参加した。地域の知人の方は交通手段がない方もおられ、なかなか面会に行けない。「久しぶり」「元気そうでなにより」と笑顔で出迎えてもらい、地域とのつながりを感じる貴重な時間となっている。今後も継続して参加をしていきたい。



【介護予防教室参加】

〔6〕特養ひろたの取組

(1) 移乗介助



【リフト式移乗介助機器】



【立位介助機器】

移乗介助等の際に使用している介護ロボット。利用者の身体状態に合わせて使用している。また、できるだけトイレでの排泄を目標に介護機器を使用して、残存機能をいかしつつ安全に移乗ができるよう心掛けている。

(2) 歩行訓練



【左】身体を預けることができる歩行器。下肢筋力が落ちていても歩行が可能。

【中】下肢筋力がある程度ある方が使用。疲れたら一休みできるように座ることもできる。

【右】歩行器を使用する前に、平行棒を使用して歩行状態等の確認を行っている。

歩行状態に合わせて様々な歩行支援用具から利用者にあった物を使用し訓練を行っている。使用当初は不安そうな表情の方も、回数を重ねるごとに姿勢や歩行状態が改善し、それに伴い表情も良くなっていくのを実感している。現在、個別機能訓練加算の算定は休止しているが、多職種で協力して利用者の機能が向上するよう取り組んでいる。

3. 在 宅 部 門

〔1〕 指定居宅介護支援事業所ひろた

【平成 30 年度目標の評価】

【重点目標】 できるだけ住み慣れた家、地域に住み続けられる支援

30 年度より介護支援専門員 2 人体制となった。それにより砥部町地域包括支援センターから旧広田地域の要支援認定者の担当依頼が増え、介護予防の対応人数が伸びた。さらに「ランチ型総合相談」「高齢者実態把握事業」を受託した。月数人程度ではあったが訪問等実施することができた。基本は、要支援・要介護状態に陥りそうな独居高齢者を対象としており、日常生活で困っていることや不安に感じていること等の聞き取りを行った。その都度アドバイスをを行い要支援、要介護状態とならないよう努めた。しかしながら、中には急変にて入院し亡くなってしまおう方もおられ対応の難しさを実感した。

30 年度は、例年に比べて急変により入院や身体状態が悪化し、新規認定のケースが多い 1 年だった。年間通して要介護者の対応人数の変動は大きくないが、対応する利用者の入れ替わりは多かった。

また、「平成 30 年 7 月豪雨」では一時期各地区の入口付近で土砂災害等発生し、地区ごとで孤立してしまう状態となり安否の把握が十分にできなかった。国道は地元業者により早急に復旧したが、枝々までは難しく送迎等困難な利用者もおられた。最近の気象変動が激しく災害発生の危険性が大きくなっており、発生時の対応等の課題が残っている。

(1) 運営状況

【利用状況推移】

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
利用人数	46 (9)	48 (10)	44 (14)	47 (16)	45 (20)	46 (21)	47 (20)	47 (19)	48 (21)	47 (21)	47 (22)	47 (21)	46.5 (17.8)

※ 29 年度月平均利用人数 41.8 人 (8.8 人)

() 介護予防

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
ランチ	0	0	4	4	0	0	2	1	4	1	1	1	18
実態把握	0	0	0	0	0	0	2	1	0	4	1	3	11

※ ブランチ型…要支援・要介護まで至らない方。独居、高齢夫婦世帯対象。

※ 実態把握…ランチ型で訪問し継続して訪問の必要な方対象。

(2) 事業内容

【介護度別利用実人数】平成31年03月31日現在 平均要介護度：2.1 (29年度：2.1) ()は29年度比

	要支援			要介護					合計
	事業	1	2	1	2	3	4	5	
男性	2	0	1	7	2	6	1	0	19(±0)
女性	1	7	10	9	10	9	1	2	49(+17)

30年度は要支援認定の新規利用者が増えた。その中でも、29年度中はデイサービスの利用希望が多く見られたが、30年度は訪問看護、訪問介護の利用を希望する方が多かった。自宅で自立した今までと変わらない生活を望む方が多いのではと思われる。デイサービスの利用者は利用回数の増加傾向にあるが、家庭の都合にて急遽ショートステイを希望されるケースも多い。ひろたのショートステイは予約で満床状態のため、市内のショートステイを紹介することも多く、総合的に考えた対応方法等検討が必要と思われる。

(3) 苦情受付

受付件数：0件

(4) 地域連絡会

(参加者) 砥部町保健師、砥部町国保診療所(医師、看護師)、砥部町地域包括支援センター職員、砥部社協訪問介護職員、特養ひろた生活相談員、砥部町デイサービスセンター生活相談員、居宅介護支援専門員

(開催場所) ひろた交流センター研修室

(開催日時) 毎月 第4火曜日 13:30～

(協議事項) サービス担当者会議、ケース検討、各機関連絡事項、その他

〔2〕 たちばなの家じゃんけんぽん

【平成30年度目標の評価】

【重点目標】機能訓練を充実し、いきいきした在宅生活を支援

30年度も新規利用者の獲得のため、市内にある居宅介護支援事業所を毎月45事業所あまり訪問し広報活動を実施した。その結果、体験利用の相談が13件ありうち9人の方が新規利用につながった。30年度に入り介護度の高い方が施設に入居したり、亡くなったりされ平均介護度が下がった。また、市内に要支援認定利用者の受け入れ可能な通所介護事業所が少ないことから要支援認定者の利用相談が増加傾向となっている。月平均の利用者数は、介護：108人、総合事業：40人となった。要介護認定利用者は目標を達成することができなかった。利用相談の問い合わせが多い要支援認定利用者増により、総合事業に関しては目標を大きく上回った。魅力のある提案を行うことで新規利用者の獲得に努めていきたい。

アセスメントシートを基に、職員全員で話し合いを行い、個々にあった機能訓練の提供に努めた。内容としては、調理等の生活リハビリを中心に提供し、一日でも長く在宅生活が継続できるようケアを行った。アセスメントシートの情報だけでなく日々変化している利用者の状態の変化を把握していくために、記録シートの活用方法について全員で話し合いを行い、細かな部分までケアが提供できるようにと努めた。ただ、情報共有が不十分な部分もあり今後の課題とし

て残っている。

職員全員が外部研修へ参加することは難しかった。そのため、外部研修に参加した職員が事業所内にて年間計画に基づいた研修を行い、知識を共有できるよう努めた。その時々にあった研修を実施・継続し個々のスキルアップにつなげていきたい。

(1) 運営状況

定員 10 人 稼働率・・・69.6% (通所介護+総合事業：256 日稼働)

【通所介護】

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用実人数	9	9	11	11	11	11	9	11	10	8	9	9	118
利用延人数	102	115	128	132	133	116	134	114	76	78	86	84	1,298

※ 29 年度延利用人数 1,569 人 (257 日稼働) 平均年齢 86.8 歳 平均要介護度 1.4

【総合事業】

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用実人数	6	6	6	7	6	5	6	8	10	9	9	9	87
利用延人数	28	39	37	39	36	30	44	44	47	45	49	46	484

※ 29 年度延利用人数 330 人 (257 日稼働) 平均年齢 81.0 歳 平均要支援度 1.8

【介護度別利用実人数】 平成 31 年 3 月 31 日現在

単位：人

	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
利用実人数	5	4	6	2	0	1	0	18

【介護度別利用延人数】

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均回数
要支援 1	4	5	4	7	4	4	4	4	13	16	16	14	95	7.9
要支援 2	24	34	33	32	32	26	40	40	34	29	33	32	389	32.4
要介護 1	67	81	84	95	97	84	97	81	45	51	59	60	901	75.0
要介護 2	17	18	17	18	18	16	19	17	17	19	20	17	213	17.7
要介護 3	18	16	18	10	13	16	18	12	6	0	0	0	127	10.5
要介護 4	0	0	9	9	5	0	0	4	8	8	7	7	57	4.7
要介護 5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	130	154	165	171	169	146	178	158	123	123	135	130	1,782	148.5
稼働率 (%)	61.9	66.9	78.5	77.7	73.4	73.0	77.3	71.8	61.5	61.5	67.5	61.9	69.6%	

※年間営業日数 256 日

(2) 事業内容

月	日	行事名	場所	
4	4	お花見	重信川土手	 <p>【お花見 重信川土手】</p>
	6	おやつ作り(いちご大福)		
	16	クッキング(いなり寿し)		
	18	外食	レストラン北斗 駅前店	
5	4	クッキング(豆腐ハンバーグ)	双海シーサイド公園	 <p>【遠足 (電車内)】</p>
	9	クッキング(お好み焼き)		
	18	おやつ作り(葛餅風わらび餅)		
	23	遠足		
	29	地域交流イベント(編みかご作り)		
6	1	おやつ作り(どらやき)	ゆず庵	
	7	外食		
	12	クッキング(ピザ)		
	27	外食		
		しそジュース作り		
	26	地域交流イベント(編みかご作り)		
7	5	外食	おんまく寿司	 <p>【クラフト作成 毛糸玉】</p>
	6	七夕飾り		
	17	クッキング(コロッケ)		
	18	外食	レストラン モルゲン	
	19	クラフト作成(毛糸玉)		
	24	地域交流イベント(編みかご作り)		
	25	お買い物	コーナン 三津店	
8	2	外食	かつ花	
	8	外食	おんまく寿司	
	14	クッキング(巻き寿し)		
	30	うどん作り		
9	5	外食	はるたけ	
	13	外食	くら寿司 枝松店	
	18	地域交流イベント(編みかご作り)		
	20	防火・避難訓練		

10	3	外食	餃子の王将	 <p>【愛・民家連 合同運動会】</p>
	9	ミニミニ運動会		
	11	外食	旬膳料理 ふるた	
	15	クッキング(餃子)		
	16	地域交流イベント(編みかご作り)		
	17	ミニミニ運動会		
	25	愛・民家連 合同運動会		
	11	5	おやつ作り(モンブラン)	
8		外食	はるたけ	
14		クラフト作成(クリスマスリース)		
16		ドライブ	久万	
19		干し柿作り		
20		地域交流イベント(編みかご作り)		
27		遠足	久万道の駅天空の郷さんさん	
12	3	切干大根作り		
	5	外食	はるたけ・そば吉	
	6	クッキング(カレー鍋)		
	10	外食		
	12	転倒予防教室		
	18	もちつき		
	19	年賀状作り		
	21	干し柿作り		
1	4	初詣	護国神社	 <p>【初詣 護国神社】</p>
	7	初詣	井手神社	
	8	漬物作り		
	9	外食	青空食堂	
	10	初詣	護国神社	
	17	外食	すしえもん	
	18	クッキング(一口カツ)		
	22	地域交流イベント(編みかご作り)		
	25	散歩	道後商店街	
2	4	節分の豆まき		 <p>【散歩 杖ノ淵公園】</p>
	5	外食	すしえもん	
	6	漬物作り		
	11	おやつ作り(肉まん)		
	12	散歩	杖ノ淵公園	
	15	外食	そば吉	
	19	地域交流イベント(編みかご作り)		
	21	外食	ゆず庵	
	22	切干大根作り		

3	8	クッキング(小田巻き蒸し)	双海 いちご園みどり エコファームうちこ	
	13	クッキング(鮭のちゃんちゃんやき)		
	14	遠足(いちご狩り)		
	22	遠足(いちご狩り)		

【いちご狩り 双海】

(地域交流イベント)

○「ひろた野菜市」

出品者：広田地域の農家等
 出品内容：季節の野菜、漬物、おもち等の加工食品
 来場者：地域住民 20人(平均)
 開催日：隔月第2土曜日



【ひろた野菜市】

○「編みかご作り」

講師：林三和子氏(広田地域住民)
 内容：クラフトテープで編みかご作り
 来場者：地域住民 4人(平均)
 開催日：不定期 年6回程度
 ※30年度で終了



【編みかご作り】

○「もちつき」

参加者：地域住民、広寿会職員
 内容：もちつき、販売
 来場者：地域住民 10人
 開催日：平成30年12月18日(火)



【もちつき】

30年度も広報活動の一環として地域交流イベントを実施した。

人気のあるイベントの一つ「編みかご作り」の教室が30年度で終了となった。これまで多くの方に参加いただいた。これに変わるイベントについては現在検討中である。今後も継続して地域交流活動の一つとしてイベントを提供し、つながりを深めていきたい。

(3) 事故報告

① 件数

ヒヤリハット・・・1件

《危険度1》… 事故を未然に防ぐことはできなかったが、バイタルサインを含め 1件
 異常は確認されなかった

事故報告書・・・3件

《危険度3》… 簡単な処置や治療を要した(消毒・ガーゼ保護、湿布) 2件

《危険度4》… 濃厚な治療を要した(骨折・縫合・入院等) 1件

② 内容

バランスを崩して転倒	3	他者の連絡ノートを間違えて持ち帰る	1
------------	---	-------------------	---

③ 原因

職員の不注意	2	確認不足	2
利用者の不注意	2	見守り不十分	1

④ 件数の推移

平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
10 件	10 件	12 件	7 件	4 件

⑤ 分析

事故 3 件はいずれも転倒で、うち 1 件は左膝に痛みがあり、受診した結果左膝にひびがあるとの診断であった。他 2 件は幸い異常がなかったが、要支援認定の方が増えており、思わぬところでバランスを崩すこともあるため、利用者一人ひとりの癖や身体状態を把握し、特に外出時は危険となりうる箇所は迂回する等、心配りすることが必要であると痛感した。

ヒヤリハット 1 件は、他者の連絡ノートを間違えて持って帰ってしまったケースで、幸い利用者等が中身を確認する前に対応することができた。しかし、個人情報の流出につながりかねない重大インシデントであるため、個人情報の管理の徹底について再検討を行った。

(4) 防火・避難訓練

- 実施日：平成 30 年 09 月 20 日（木）
- 参加者：利用者 7 人（全員参加）
職員 4 人
消防署員 2 人



【避難訓練】

《評価》

30 年度は消防署職員立会いの基、実施した。避難は迅速で、短時間で完了することができたが、避難行動時の動作等において自身の身を守る必要があるとの指導があった。

今回の指導を基に今後の避難訓練内容が充実するよう検討していきたい。

平成 30 年度 素鷲地区防災訓練

- 実施日：平成 30 年 09 月 02 日（日）08：30～12：00
- 参加者：職員 2 人
- 会 場：拓南中学校（グラウンド、体育館、柔剣道場）
- 内 容：放水訓練、応急救護訓練、消火訓練、放水体験
地震体験、煙体験、防災マップ作り他



【放水訓練】

《評価》

事業所では実施することが難しい大規模地震を想定した訓練内容で、非常時の対応方法を学ぶことができた。地域に根差した事業所として災害発生時には迅速に対応できるよう、事業所内でも研修・検討を行っていききたい。

(5) 運営推進会議

○日 時：平成30年12月12日（水）14：00～16：00

○参加者：地域住民代表者1人、利用者の家族1人、地域包括支援センター職員1人
たちばなの家管理者・生活相談員

○日 時：平成31年01月29日（火）14：00～15：00

○参加者：地域住民代表者1人、利用者の家族1人
松山市介護保険課1人、地域包括支援センター職員2人
小規模多機能ホームゆうゆう立花管理者
グループホームファミール立花管理者
たちばなの家管理者・生活相談員

《評価》

参加された家族から「これまでは全く無関心だったが、いざ直面するとわからないことばかりで、家族の介護を通して多くのことを学んだ」との言葉があり、家族の不安が少しでも改善できるような介護の勉強会等が必要ではないかと感じた。

1月の運営推進会議は近隣の事業所にも声をかけて開催した。民生委員からは、「地域住民のうち、70歳以上が8割以上を占めており今後どうなっていくか不安が大きい」と相談を受けた。各事業所においても地域と密着していくためにどのように活動していくかが課題であり、1事業所では難しいことも近隣事業所が協力することで地域に貢献できる何かが見つかればと考えている。

(6) 苦情受付

受付件数：0件

(7) 在宅ケア委員会

(参加者) 施設長、部長、居宅管理者、たちばなの家職員

(主な協議事項) 担当より連絡・報告 ケース検討 実績報告

開催日	協議項目
H30.04.18	ゴミ処理方法 寒暖差に伴う利用者の体調管理 事故検討
05.24	認知症状が著名な方の対応方法 野菜市の宣伝活動
06.28	OTリハビリ実施曜日の変更 理事会報告 熱中症・脱水予防
07.25	水分管理による脱水予防 災害発生時の行動 業務の見直し アクションプランの進捗チェック
08.22	利用者との接し方 プログ等のツールを活用した広報活動 脱水予防

09.25	避難訓練の報告 経費の処理方法 書類作成時の確認 事故検討
10.22	連絡ノート記入漏れ インフルエンザ注意喚起 31年度からの野菜市開催日程
11.28	利用者の体調管理 通勤時・送迎時の注意喚起 年末年始休業における利用者のニーズ調査
12.28	利用者の席の配置 物品購入
H30.01.30	31年度の事業展開 インフルエンザ注意喚起
02.27	光熱費等の契約内容の見直し インフルエンザの注意喚起
03.28	理事会・評議員会報告 インフルエンザ発生経過の報告

〔3〕砥部町デイサービスセンター（砥部町委託事業）

【平成30年度目標の評価】

【重点目標】 身体機能の維持・改善、利用が楽しみになるデイサービスメニューの実践

30年度からは定員が25人となり、サービス提供時間も延ばした。居宅からの紹介も増え延べ利用者数は29年度比で1,046人増と大幅に増えた。長くなった利用時間を有意義に過ごしていただくために、特にリハビリやレクリエーションの内容を工夫した。午前中は主に入浴を行いながら、空き時間を活用して個々で実施する塗り絵や脳トレ、数人で協力するちぎり絵の制作等を取り入れた。午後は転倒予防体操から身体を動かせる『動』を意識したメニューと、脳トレやテーブルゲーム等の『静』を意識したメニューの2部構成とした。活動状況を見ながら、個別で歩行訓練や機器を使っただけのリハビリも実施し、身体機能の維持向上にも努めた。元気になっていく過程や「デイサービスに来ることが一番の楽しみ」といった声を聞くと、試行錯誤の1年ではあったが目標を達成できたと感じる。

定員を増やしたことで、内子町（旧小田地区）からの利用が29年度比110%、広田地域でも特に高市地区の利用者が130%となり、送迎距離・時間ともに長くなった。幸い事故なく1年を終えることができたが、送迎に関する苦情が1件あった。デイサービス職員に加え、施設車両を使用する職員を対象に安全運転講習を実施した。貴重な意見ととらえ、今後も安全運転に努めていきたい。

また、利用者一人ひとりの状況をより把握できるよう、特養で取り入れている総合記録シートを通所用アレンジして導入した。しかし、パソコンの記録システムとの併用になるため、年間を通して記録漏れやミスがあり、十分に活用することができなかった。これに関しては、改良を行いながら引き続き活用を進めていきたい。

(1) 運営状況

30年度より定員25人に変更

30年度稼働率(定員25人)・・・74.0%(介護+総合事業)

29年度稼働率(定員20人)・・・72.0%(介護+介護予防+総合事業)

※平成29年度で介護予防は終了し総合事業に移行

【通所介護】

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用実人数	33	33	34	39	35	38	39	38	39	37	39	38	442
利用延人数	276	316	296	314	327	305	383	363	345	313	327	337	3,902

※ 平均年齢 86.4歳 平均要介護度 1.9

【総合事業】

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用実人数	12	13	14	13	16	16	14	13	14	15	15	14	169
利用延人数	60	70	71	65	77	80	75	66	62	68	73	71	838

※ 平均年齢 86.5歳

【介護度別利用実人数】 平成31年03月31日現在

単位：人

	事業対象者	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
利用実人数	3	3	8	17	10	8	1	2	52

【介護度別利用延人数】

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均人数
事業対象者	5	6	7	6	8	6	10	11	9	9	10	10	97	8.0
要支援1	19	24	26	29	31	35	22	16	17	17	19	10	265	22.0
要支援2	36	40	38	30	38	39	43	39	36	42	44	51	476	39.6
要介護1	123	115	115	123	128	110	148	138	124	125	131	139	1,519	126.5
要介護2	51	82	80	85	78	92	101	97	89	81	80	72	988	82.3
要介護3	77	87	87	87	98	76	96	94	101	79	82	92	1,056	88.0
要介護4	13	12	11	16	15	9	13	13	11	20	5	4	142	11.8
要介護5	12	20	3	3	8	18	25	21	20	8	29	30	197	16.4
合計	336	386	367	379	404	385	458	429	407	381	400	408	4,740/395.0	
稼働率 (%)	64.0	67.1	69.9	68.9	70.2	77.0	79.6	78.0	81.4	76.2	80.0	77.7	74.0	

(2) 事業内容

【通所介護】

月	日	行事名	場所	
04	03・10 05 25	お花見 青空カフェ お好み焼きパーティー	銚子ダム デイサービス中庭	 <p>【お花見】</p>
05	08 17 18 21 29 30	おやつ作り（しょうゆ餅） 外出（東温市） 誕生日会 おやつ作り（柏餅） あじさい見学 ごはん作り（山菜ごはん）	花きセンター	 <p>【花きセンター】</p>
06	04 06 07 14 20 22 26	ドライブ 梅ジュース作り ごはん作り（豆ごはん） おやつ作り（ピザ） 特養交流会 誕生日会 あじさい見学	小田せせらぎの郷 高市地区	
07	13 23 25 25	おやつ作り（わらび餅） 誕生日会 ごはん作り（ぎょうざ） 特養交流会	福祉センターホール	
08	9 17 22 27	たらいそうめん 夏野菜カレーパーティー 誕生日会 たこやきパーティー		 <p>【たらいそうめん】</p>
09	13 21 24	ごはん作り（ちらし寿し） 防災訓練 敬老会		

10	09	ごはん作り（栗ごはん）	特養ひろたピロティ	
	11	ごはん作り（いもたき）		
	16	誕生会		
	23	地方祭		
	29	お好み焼きパーティー		
11	02	ごはん作り（きのこごはん）	小田深山	
	06	外出（紅葉観賞）		
	07	おやつ作り（スイートポテト）		
	26	広田小学校交流会		
12	7	おやつ作り（ぜんざい）		
	12・20	鍋パーティー（支援ハウス合同）		
	18	たこ焼きパーティー		
	24	クリスマスケーキ作り		
01	04	ふくわらい、書初め		
	07	新春カラオケ大会		
	15	ごはん作り（ちらし寿し）		
	24	おやつ作り（あべかわ餅）		
02	04	節分豆まき		
	13	誕生会		
	15	おやつ作り（豆いり）		
	20	広田小学校交流会		
	21	ごはん作り（炊き込みごはん）		
03	08	お好み焼きパーティー		
	19	おやつ作り（ドーナツ）		
	20	防災訓練		
	27	誕生会		

※ 行事食：特養と共同に関しては栄養士行事食に記載

【地域・ボランティア交流】

月	日	活動内容	団体および個人名	
04	05	おはなしかい	砥部町立図書館・広田保育所	
	23	ひろた開園 17 周年記念感謝祭	特養ひろた	
05	10	おはなしかい	砥部町立図書館・広田保育所	
06	07	おはなしかい	砥部町立図書館・広田保育所	
07	05	おはなしかい	砥部町立図書館・広田保育所	
08	02	おはないかい	砥部町立図書館・広田保育所	
09	06	おはなしかい	砥部町立図書館・広田保育所 水地パフォーマンスクラブ	
	24	演芸ボランティア		
10	04 24	おはなしかい 転倒予防教室	砥部町立図書館・広田保育所 一ノ宮孝司氏	

【敬老会】

11	01 15	おはなしかい 三世代交流大運動会	砥部町立図書館・広田保育所 広田保育所・育児サークル・地域住民	
12	07 24	おはなしかい 音楽ボランティア	砥部町立図書館・広田保育所 広田オカリナクラブ	 【音楽ボランティア】
02	07 20	おはなしかい 広田小学校交流会	砥部町立図書館・広田保育所 広田小学校	
03	07 14	おはなしかい 演芸ボランティア	砥部町立図書館・広田保育所 アーティストグループエンゼル	

(3) 事故報告

① 件数

ヒヤリハット・・・18件

《危険度0》 …… 事故を未然に防ぐことができた 11件

《危険度1》 …… 事故を未然に防ぐことはできなかったが、バイタルサインを含め異常は確認されなかった 7件

事故報告書・・・15件

《危険度2》 …… 処置や治療は行わなかったが、バイタルサイン観察は継続的に必要 11件

《危険度3》 …… 簡単な処置や治療を要した(消毒・湿布・皮膚剥離・鎮痛剤の服用) 4件

② 内容

転倒	8	利用日確認不足	5
食べ物が詰まりかける	4	送迎時対応ミス	4
所在不明	3	紛失	2
障害物に躓く	1	表皮剥離	1
酸素チューブ抜去	1	異食	1
個人情報流出	1	利用者自身の危険行為	1
医療器具取扱いミス	1		

③ 原因

見守り不十分	13	確認不足	4
マニュアル・ルール不遵守	3	職員の不注意	3
知識・技術不足	2	環境不十分	2
利用者の不注意	1	行動予測不十分	1
その他	4		

④ 件数の推移

平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
9 件	11 件	9 件	23 件	33 件

⑤ 分析

29 年度より事故件数が 10 件増加した。転倒事故 8 件のうち送迎時の事故が 3 件あった。送迎車両から自宅間の移動の際に 2 件、玄関上り框での転倒が 1 件となっている。認知症のある利用者の咄嗟の行動にて対応が難しかったり、その日の身体状況の把握ができてなかったりであった。住宅の立地条件等課題もあるが、情報共有を行い安全に送迎ができるよう取り組んでいきたい。

また、所在不明が 3 件あり、いずれも職員が目を離した間に起こっている。内容としては、同一利用者が玄関外にて発見が 2 件、電動四輪車にて来所後すぐに帰宅してしまったケースが 1 件あった。利用者のその日の言動や行動等の把握を行い、対応のポイントや穏やかに過ごしてもらえりような環境設定が必要である。

さらに職員の入れ替わりもあり、その都度事故事例を伝えたものの十分に伝わらず、同じような事故が発生したケースも見られた。事故後はできるだけ早急にカンファレンスを行い、原因分析と再発防止策の検討を行った。些細なことでもインシデントとして報告書を作成し、カンファレンスにて分析と対応策を検討、情報共有を徹底し、同じような事故を繰り返すことのないように努めていきたい。

(4) 苦情受付

(目的) 利用者及びその家族からの苦情に対し、迅速、公正かつ適切に解決することを目的とする。

苦情受付件数：1 件

苦情内容：デイサービス送り時リフト車両がカーブを内側に寄って走行していたため、危険を感じた。

対応内容：①その日にあった委員会にて注意喚起を行った。

②職員の体調等もあるためお互いに声を掛けあい慎重に業務にあたる。

③安全運転研修会を開催し注意喚起を行った。

(5) 在宅ケア委員会

(参加者) 施設長、部長、砥部町デイサービス職員、居宅介護支援事業所

(主な協議事項) ケース・業務検討、各部署・委員会より連絡

開催日	協議項目
H30. 05. 01	総合記録シート導入の検討
05. 25	有効な水分ケア
06. 18	業務の見直し検討
07. 27	指導監査のチェック項目
08. 28	接遇 (利用者への言葉遣い)
09. 20	連絡事項及び業務確認

10.25	記録の統一
11.21	感染予防方法
12.21	業務内容の確認と徹底
H31.01.25	行事開催時の企画、報告を確実にを行う
02.28	統一したケアについて
03.22	30年度の振り返りと31年度事業計画の検討

〔4〕砥部町地域支援事業（砥部町委託事業）

（1）転倒予防教室

（目的）転倒を予防し、骨折等により要介護状態にならないようにする。

○実施日：平成30年10月24日（水）14：00～15：00

○場所：砥部町高齢者生活福祉センターホール

○講師：一ノ宮 孝司 氏（理学療法士）

○参加住民：11人

○内 容



【転倒予防教室】

『転倒事故は住み慣れた自宅内で起こることが最も多い。日頃からスクワットや片足立ち等の手軽にできる体操をすることで、骨盤底筋を鍛え転倒を予防できる。』

『近年は自然災害が多く、いつ何が起こるかわからない。日頃から非常時持ち出し袋をベッドの脚にひもで縛り付けておけば“備えあれば憂いなし”で慌てなくて済む。』

高齢者の生活に役立つ知恵等、ユーモアを交えて楽しい内容で、参加した住民からは「楽しい話が聞けて良かった。次回もまた声をかけてほしい」と大変好評だった。

（2）地域住民グループ支援事業

（目的）地域や世代間の交流を図ることにより、高齢者の生活意欲の向上を目指す。



【三世代交流大運動会】

平成30年11月15日（水）参加者：23人



【いちご狩り（内子町 エコファームうちこ）】

平成31年03月13日（火）参加者：6人

（3）いきいき見守り配食サービス

（目的）65歳以上の独居高齢者等で調理が困難な希望者に、バランスのとれた食事を提供するとともに定期的な安否確認を行う。

○利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計/平均
利用者数	6	6	8	8	9	8	8	8	8	7	6	6	88/7.3
延利用回数	36	43	55	48	54	52	58	53	52	49	40	42	582/48.5

《評価》

30年度当初、新規利用希望者増にて配食数が増加したが、体調不良等により入院や長期のショートステイを利用するようになり後半は減少した。日頃より声掛け等していたが、在宅での生活を継続する難しさを感じる。今後も広田地域にて生活を続けていくために必要なサービスとして支援していきたい。

〔5〕支援ハウス（砥部町委託事業）

（1）運営状況

定員 10 人

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入居人数	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8

※ 入居人数は月末入居人数

（2）行事報告

月	日	内容	場所
04	02	お花見	デイサービス中庭
	29	ひろた開園 17 周年記念感謝祭	デイサービス中庭
08	09	たらいそうめん	デイサービスホール
09	23	広田小学校運動会	広田小学校
	21	防災訓練	福祉センター
	24	敬老会	デイサービスホール
10	07	松木 Dr 講演会	デイサービスホール
	23	地方祭	特養ひろた正面玄関
	24	転倒予防教室	デイサービスホール
11	15	三世代交流大運動会	デイサービスホール
	20	回転寿司	デイサービスホール
	26	広田小学校交流会	デイサービスホール
12	26	もちつき	特養ひろた 2 階ホール
02	20	広田小学校交流会	デイサービスホール
03	14	演芸ボランティア	デイサービスホール
	20	防災訓練	福祉センター

※ 砥部町デイサービスセンターや特養ひろたの催し物に随時参加

〔6〕在宅部門の取組

（1）たちばなの家じゃんけんぽん

自宅での生活が継続できるように、日常生活に合わせたサービス提供に取り組んでいる。以前より自分でできることが増え、生活に意欲が出てきたと喜ばれる利用者が多い。



食事は、毎回みんなで調理している。各家庭での工夫や味付けの話題で盛り上がる。

【うどん作り】



【輪投げ作成と完成】

レクリエーションの道具を利用者も協力して一緒に作成することで、積極的な参加が期待できる。



【花壇作り】

利用者の趣味に応じて、日常の活動内容を検討し、趣味と活動が連動できるよう支援を行っている。



【タオル体操】



【足踏み運動】



【近隣の散歩】

身近にある物を使用した体操や簡単な運動機器を使用して自宅でも継続できるリハビリに取り組んでいる。

近隣の散歩に出かけ日常の動作や課題の確認を行っている。

（2）砥部町デイサービスセンター

山間地域のため、自宅周辺の環境に段差や急な坂が多い。利用者、家族ともに転倒等に十分注意しても高齢化による下肢筋力の低下で、躓きや転倒するケースも多い。できるだけ自宅での生活が続けられるよう身体機能の維持、回復を目標にリハビリに取り組んでいる。また、隣近所が離れており、交流も少なくなっていることから、デイサービスを利用して交流ができるように対応している。



【滑車運動等機器】



【外出行事 紅葉狩り（左） 買い物等（右）】



運動機器を使用して、痛みや関節の可動域が狭い利用者のリハビリを行っている。

年間行事で外出行事等企画し、屋外に散歩に出て下肢筋力の改善や日常生活動作の確認等に取り組んでいる。



【梅干し作り】



【お寿司作り】

漬物やお寿司作り等昔から慣れ親しんだ日常が継続できるよう、季節にあった内容の支援を行っている。

男性の利用者は顔馴染の方同士で趣味を楽しんでいる。



【趣味の囲碁】

4. 会 議 等

〔1〕 主任会

事業運営、各事業所の課題検討、実績報告等話し合いを行う。

(参加者) 施設長、部長、施設部門主任、在宅部門主任

(開催日) 2か月に1回程度 17:00～

(主な協議事項) 各部署からの報告・連絡・アクションプランの評価

開催日	協議事項等
H30.05.15	勤務形態変更 営業時間変更 記録内容検討 ショートステイ増床計画 人事他
07.16	豪雨災害報告 被災地区利用者受け入れ ターミナル利用者報告他
09.14	ターミナル利用者報告 実地指導監査準備
10.12	申し送り連絡体制検討 砥部町デイサービス冬期営業時間短縮 人事他
H31.01.11	インフルエンザ感染報告 事業計画検討他
02.18	ダブルチェックの方法検討 感染対策 個人情報管理 人事他

〔2〕 職員会

施設運営に関する職員間の情報共有を行う。

(参加者) 全職員

(開催日) 3か月に1回 第1週目 17:30～

(主な協議事項) 行事予定の連絡 各部署からの連絡事項

開催日	参加人数	協議事項等
H30.04.02	24	辞令交付 人事異動 超過勤務 個人情報の取り扱いの徹底 支援ハウス利用者の緊急時の対応方法 互助会会計報告
07.02	23	加算について(排泄、褥瘡、夜勤職員) 医療事故 給与規程改正 ナイスアイデア賞
10.01	23	ターミナル 辞令交付 人事異動 新規事業公募準備報告
H31.01.04	17	インフルエンザ感染報告 安全運転注意喚起 新規事業計画報告

〔3〕 広報委員会

広報紙「広寿」の編集発行を中心に、法人および事業所の情報発信に努めていく。

(参加者) 各部署で選定された職員

《振り返りと課題》

30年度は、第37号(平成30年8月)、第38号(平成31年1月)を発行し、施設利用者や家族、地域住民、そして近隣施設等関係機関へ配布した。



【広寿第37号】

【広寿第38号】

発行回数を増やし、各事業所の取り組み内容等の情報発信に努めたい。

ホームページやブログを活用した情報発信

日常の様子をタイムリーに伝える手段として有効活用に努め、情報発信をしていく。

- 広寿会ホームページ
<http://www.koujukai-hirota.com/>

- ブログ 「ほのぼの♪ひろた日記」
「たちばな便り じゃんけんぽん」



ブログ「ほのぼの♪ひろた日記」

《振り返りと課題》

法人全体で発行する「広寿」は2回の発行となった。たちばなの家が独自発行する「たちばなの家 じゃんけんぽん便り」は毎月発行し、利用者家族や居宅介護支援事業所から評価をいただいた。ブログに関しては、定期的に更新行ったものの閲覧数は伸びていない。離れて暮らす家族等が興味を持って閲覧していただくことができるよう情報発信をしていきたい。

〔4〕防災委員会

防災に関する知識を養い、その対策全般に関する検討および実行をする。

(参加者) 施設長、部長、防火管理者・特養生活相談員、居宅管理者、砥部町デイサービスセンター生活相談員、看護主任、管理栄養士

開催日	協議事項
H30. 07. 16	「平成30年7月豪雨」災害状況報告 豪雨災害被災利用者緊急受け入れ
H31. 03. 20	防災訓練反省

① 防災訓練等の実施状況

年月日	訓練の名称及び内容	
H30. 09. 21	第1回 防災訓練 (通報訓練、避難訓練、消火訓練) ※地震火災想定 ※初期消火訓練は、特養ひろた・砥部町デイサービスセンター合同で実施	 【消火訓練】
H30. 12. 17	「平成30年度シェイクアウトえひめ伝達訓練」 中予老協緊急連絡網を用いた伝達訓練	
H31. 03. 20	第2回 防災訓練 (通報訓練、避難訓練、消火訓練) ※夜間火災想定(特養) ※レスキューシートを使用した避難訓練(特養) ※初期消火訓練は、特養ひろた・砥部町デイサービスセンター合同で実施	 【避難訓練】

《総評》

「平成 30 年 7 月豪雨」の際には、朝食の提供が難しい状況となり、開設以来、初めて備蓄品使用による朝食提供を行った。また、道路状況等の情報を収集し、デイサービスの送迎の可否の判断や出勤職員への伝達等の安全確保にも努めた。今後想定できないような災害に対して、防災対策を再検討していく必要も感じた。

防災・防火訓練では、初期消火・避難誘導・通報訓練の大切さを学んだ。避難誘導・通報時に関しては特に情報共有を行うことが大切であり、安全に避難ができるよう正確な対応や情報伝達等の体制づくりが必要と感じる。

② 防災等研修会

《研修に参加して》

「平成 30 年 7 月豪雨」もあったことで、今後の福祉避難所の役割や災害時の対応方法等の研修会が多く開催され参加した。また、防火、救急救命等の研修会にも参加し、緊急時の対応方法等貴重な体験ができた。研修会に参加することにより、普段体験できないことや災害等発生時の対応方法が勉強できる。参加した職員が情報を職場に持ち帰り周知することで少しでも慌てず、迅速に対応できるよう共有していきたい。

〔5〕給食委員会

「食＝命」をテーマに、より良い食の提供を施設職員、厨房委託業者職員ともに取り組む。

(参加者) 委託業者、施設長、部長、特養ひろた生活相談員、砥部町デイサービスセンター生活相談員、管理栄養士

(開催) 毎月 1 回

(主な協議事項) 利用者の食事摂取状況や料理の味付け、献立内容等

《総評》

毎月開催することにより、各事業所からの指摘に対して迅速に対応することができた。ソフト食についても案を出し合うことで、より質の良い状態で提供できるようになった。また、委託業者栄養士がリビングを訪ね直接利用者から話を聞ける機会が増え、献立にも反映されるようになった。今後も利用者に喜ばれる食事を提供していきたい。

行事食

【施設・在宅部門】

月	日	行事	献立内容
04	02	お花見	ちらし寿し・鶏肉の八幡巻き・だし巻き玉子・鶏の唐揚げ・ごま和え・かぼちゃの煮物・赤魚の西京焼き・桜餅・フルーツ
	29	開園 17 周年記念 感謝祭	うどん・お好み焼き・フランクフルト 天ぷら（しいたけ・さつまいも・たけのこ） デザート 
05	28	居酒屋	チャーハン・おにぎり・揚げ出し豆腐・冷やしうどん・串カツ盛り合せ

06	25	手打ちうどん	うどん・おにぎり・天ぷら盛り合せ・酢の物・ごまプリン
7	19	祝い膳	巻き寿司・天ぷら盛り合せ・鶏肉のごぼう巻き・夏野菜のゼリー寄せ・かぼちゃの煮付・すまし汁・和菓子
08	27	そうめん流し	そうめん・おにぎり・鶏の唐揚げ・やきナス・枝豆・玉子やき・ぶどう
09	04	祝 100 歳の祝い膳	肉うどん・赤飯・やきナス・紅白まんじゅう・ぶどう
10	04	秋刀魚の会	おにぎり・秋刀魚の炭火やき・ピーナッツ和え・だし巻き玉子・いも天・梨
11	20	回転寿司 (砥部デイ)	にぎり寿司 (ハマチ・マグロ・エビ・穴子・玉子・いなり寿司)
	21	(特養)	赤だし・プリン
	25	家族の会	おにぎり・いもたき・天ぷら・フルーツ盛り合せ
12	24	クリスマスランチ	チキンライス・シーフードグラタン・サラダ・パンプキンポタージュ・チョコムース
	26	もちつき	もちバイキング・たき合せ・ごま和え・フルーツ盛り合せ
01	01	お節料理	巻き寿司・刺身三点盛り・酢の物・たき合せ・岩石玉子・すまし汁・栗きんとん
	20	祝 101 歳の祝い膳	にぎり寿司・天ぷら盛り合せ・豚の角煮・和え物・ふるふき大根・栗大福
03	29	祝い膳	にぎり寿司・茶わん蒸し・牛の角煮・たき合せ・花野菜の青しそ和え・赤だし・紫いものスイートポテト

《振り返りと課題》

30 年度は委託業者とともにソフト食研修会に参加し、より安全で食べやすいソフト食作りに取り組んだ。肉・魚のソフト食はより軟らかく仕上げる事ができたが、麺類は様々な方法を試している段階である。今後もその都度見直しを行い、より食べやすい形態へ移行していく。



左 (スパゲティ) 右 (ソフト食のスパゲティ)

絞り器で麺状にしているが時間の経過とともに麺がひっついてしまう課題がある。



左 (鮭と野菜のバター蒸し) 右 (ソフト食の鮭と野菜のバター蒸し)

素材の味を生かし、見た目もなるべく元の食材に近づけるよう工夫を行っている。

5. 研修等

〔1〕施設実習等受入状況

期間	活動内容	団体及び個人名	人数
H30. 08. 09～ 09. 07	社会福祉施設援助技術現場実習	聖カタリナ大学	1
10. 19	施設見学	特別養護老人ホーム しいのき園	5
H31. 03. 29	見学（ボランティア）	河原学園	1

〔2〕施設内研修

開催日	研修名	担当者名
H30. 04. 02	倫理及び法令遵守	西岡真由美
05. 01	救命救急	伊予消防等事務組合広田出張所 (外部講師)
05. 07 05. 08	接遇	原田賢一
06. 06 06. 08	身体拘束・虐待	二宮幸栄
07. 02	食中毒	菊澤綾香
07. 03 07. 10	ターミナル	上谷千代
08. 08 08. 11	摂食ケア	藤岡早苗 梅原弘規
09. 26	ストレスマネジメント	NPO 法人こころ塾 (外部講師)
10. 11 10. 17	感染予防	上谷千代
10. 25 11. 15	愛媛県中予保健所主催 「施設における口腔保健向上」	外部講師
12. 13 12. 17	排泄	吉見涼 中野あかね
H31. 01. 04	身体拘束・虐待	二宮幸栄
01. 26 01. 30	食事介助	菊澤綾香
01. 26 01. 30	認知症	梅原弘規
02. 04 02. 06	ターミナル	松本真理

03.11 03.15	事故防止	二宮幸栄
03.27	ダブルチェック	上谷千代 二宮幸栄
03.20 03.29	褥瘡予防	上谷千代

【研修会】

年間計画に沿ってテーマごとに担当を決め、担当者は主任等と研修内容の確認を行いながら準備をしている。前半はパワーポイントを使用して勉強会をし、後半は事例に基づいてケアの検討を行った。また、研修内容によっては外部講師を招き研修を実施している。



【研修会】

要点をまとめて新人職員でも理解できるよう工夫して準備している。研修を重ねるごとにパソコン等の扱いにも慣れてきている。

事例検討では、ユニットを越えての話し合いとなっており、お互いに新たな気づきの場ともなっている。



【救急救命講習】

救急救命等、外部の専門の方を招いての研修も実施。専門の方から、より現場に即した対応方法を指導していただいた。

外部講師の研修は様々な経験からのアドバイス等があり大変貴重な研修会となっている。



【事例発表】

平成31年2月26日、中予地区老人福祉施設協議会主催の「排泄研修会」で事例発表を行った。発表することにより、自分たちのケアの振り返りができるよい機会となった。

A series of horizontal dashed lines for writing.



社会福祉法人 広寿会

〒791-2205

愛媛県伊予郡砥部町総津 405 番地

電話：089-969-2155 FAX：089-969-5151

HP：<http://www.koujukai-hirota.com>



特別養護老人ホームひろた 短期入所生活介護事業所ひろた

〒791-2205

愛媛県伊予郡砥部町総津 405 番地

電話：089-969-2155 FAX：089-969-5151

Mail：info@koujukai-hirota.com

ブログ：<https://ameblo.jp/koujukai-hirota/>



地域密着型通所介護事業所 たちばなの家じゃんけんぽん

〒790-0966

愛媛県松山市立花 1 丁目 11 番 3 号

電話：089-906-5171 FAX：089-946-9033

Mail：jankenpon@koujukai-hirota.com

ブログ：<https://ameblo.jp/ds-jankenpon/>



砥部町デイサービスセンター（砥部町委託事業）

〒791-2205

愛媛県伊予郡砥部町総津 398 番地

電話：089-969-2211 FAX：089-969-5151

Mail：info@koujukai-hirota.com

ブログ：<https://ameblo.jp/koujukai-hirota/>





※カラー版の事業報告書は『社会福祉法人 広寿会』ホームページにて閲覧できます。

アドレス：<http://www.koujukai-hirota.com>